第２期ひろしまの森づくり事業の検証結果（素案）について

平成２８年１０月１９日
農　林　水　産　局

１　要旨

ひろしまの森づくり県民税を財源とするひろしまの森づくり事業については，５年間を１期として，森林を取り巻く情勢や国の状況を踏まえつつ事業効果を検証することとしており，平成２８年度末に第２期（平成２４～２８年度）が終了することから検証を行った。

２　対象

平成２４年度から平成２７年度までに実施した，ひろしまの森づくり県民税を活用した事業を対象とする。

３　検証の視点等

○　第２期で策定した施策の方向性ごとに，これまでの取組による成果や波及効果の状況，課題等を調査し評価。

○　調査に当たっては，市町や森林ボランティア団体等からの意見聴取や県民アンケート調査を実施。

４　「ひろしまの森づくり事業」検証結果の概要（案）

○　これまでに「森林機能の維持発揮」や「県民参加による多様な森づくりの推進」などの施策展開を図ってきた結果，洪水緩和や水源涵養などの公益的機能の増加が図られるなど，森林の公益的機能の維持・発揮に向けた取組が行われた。

○　また，第１期終了時の課題であった県民参加の多様な森づくりの推進の増加や，森林資源の利用の促進などの取組も進んだ。

○　一方，県民理解の促進など今後に向けた課題も存在し，引き続き課題の解決を図りながら，目指す姿の実現に向け取り組む必要がある。

○　今後，第３者で構成される森林審議会において意見聴取を行い，検証結果を取りまとめるとともに，ひろしまの森づくり県民税の継続の可否について検討を行う。

第２期計画			成果	今後の主な課題
目指す姿	施策展開の方向性			
森林の持つ公益的機能を持続的に発揮（県民のだれもが心身ともに豊かな暮らしを享受できる森林環境の実現）	県民全体で守り・育て・次代へつなげる森づくり活動	森林機能の維持・発揮	○　人工林においては，手入れのなされていない放置された森林が着実に減少するなど，次代に引き継ぐための森林整備を着実に実施 ○　里山林においては，景観の改善や，里山の活用，鳥獣被害対策に寄与するとともに，「地域の価値を高める」活動が展開	○　依然約４万２千ヘクタールの手入れ不足人工林が存在 ○　権利の特定や森林所有者の間伐に対する理解不足などの複合的な要因が，事業同意取得のボトルネック ○　地域全体での計画的な整備や適切な整備区域の設定による効果の拡大
		県民参加による多様な森づくりの推進	○　森林整備活動が増加するだけではなく，森林・林業体験の担い手や，幅広い森づくり活動の受け皿としての役割を発揮する団体も出現	○　各団体は，活動を継続・発展させるうえで，その段階ごとに異なる課題（安全管理技術，財務基盤，人的ネットワーク等）を抱えている
		森林資源の利用促進	○　県産材の利用が進んだほか，継続的な木材利用に向けた仕組みづくりがなされたことにより，森林資源の利用促進がなされ，持続的に森林資源を活用	○　住宅における県産材利用量は伸びたものの，目標としていた県産材利用量に到達しなかった ○　発注者・設計者の先入観・抵抗感から非住宅建築物の木造化が進んでいない
		県民理解の促進等	○　森林の重要性に対する認識は高い	○　これまで行った森林の役割や機能の重要性，事業内容の広報よりも，森づくり事業の成果や活動実績を求める声が多く，ミスマッチが生じている